

自給飼料生産・利用における低コスト化のポイント

愛媛県畜産研究センター

自給飼料生産拡大・増産のポイント

① 生産圃場の整備・整地

- ・遊休農地等の利用
- ・水はけのよい農地の選定及び改善（明渠、暗渠の整備等）
- ・適切な施肥管理
 - 土壌診断に基づく施肥管理。
 - 堆肥の活用による化成肥料の低減。（堆肥活用の際は肥効率も考慮すること）

② 自給飼料の栽培

- ・適切な作物・品種選定
 - 天気の長期予報等を活用し、適期播種・適期収穫が可能な作物・品種を選定。
 - ソルガムは連作障害が発生する場合もあるため、収量低下がみられた場合は栽培作物の切替えを検討。
- ・雑草や病害虫、鳥獣害の防除
 - 適切な農薬使用による、雑草や病害虫の防除対策。
 - テグスや忌避剤を利用した鳥害対策。
 - 圃場周辺的环境整備（定期的な草刈りなど）や電牧柵を利用した獣害対策。

③ 自給飼料の収穫・調製

- ・適期収穫の実施
 - 適期収穫により、サイレージ調製に最適な水分・栄養価となり、ロスが少ない良質サイレージとなる。
- ・収穫時の土砂や雑草の混入防止
 - 土砂や雑草混入により不良発酵が起こりやすいので、土壌が柔らかく混入しやすくなる場合は、収穫高を上げて混入防止する。
- ・適切な細断と加圧
 - 適切な細断（長大作物 10～15 mm、牧草 10～30 mm、飼料イネ 30 mm）と十分な加圧により、乳酸発酵促進。
- ・速やかな密封
 - サイレージを速やかに嫌気状態にすることで、カビや酵母の活動を抑制し、乳酸発酵を促進。
- ・サイレージ添加剤の利用
 - 適期収穫が困難となった場合は、サイレージ添加剤も利用し、発酵品質の向上を図る。

④ サイレージの保管

- ・丁寧な取り扱い

嫌気性状態を維持するため、ロールベールやビニールシート等サイレージ被膜材に傷をつけないよう、丁寧に扱う。

- ・鳥獣害対策

テグスや網を利用した鳥害対策や、保管場所周辺的环境整備（定期的な草刈りなど）や電牧柵を利用した獣害対策。なお、ロールベールサイレージは地面に直置き。（パレット等で下部に隙間があると、ネズミが侵入し被害発生）

⑤ その他

- ・機械の適切な整備

作業機械の定期的な整備により、急な故障を防ぎ、計画的な栽培・収穫・調製により適期収穫、良質サイレージ調製が可能。

- ・コントラクター等飼料生産組織の利用

飼料生産組織を利用することで、適期に収穫・調製できるような計画を作成（一部圃場作業を委託等）。

飼料イネ等自圃場では生産困難な飼料作物の生産委託。